

特集

「まちなか再生戦略 WS 事業」から「まちなか再生活動」へ

NPO 法人市民の力わかやま

理事 糀 谷 昭 治

平成 23 年度ふるさと雇用再生特別基金活用事業に、「まちなか再生戦略 WS（ワークショップ）事業」として、採択された。平成 23 年 9 月から 3 月まで取り組んできた事業の概要から、新しくスタートする「わかやまイイネ！プロジェクト」による「まちなか再生活動」までを報告する。

■ まちなか再生戦略 WS の目的

空ビル・空店・空家・空き地などが急激に増加し、虫食い状態で存在する「空洞化した和歌山市中心市街地（まちなか）再生の重要性」を WS 参加者全員で共有し、魅力的な“和歌山のまちの顔”をいかにして作り直していくかということを、理念から現場まで根本にかえって、すぐにできることだけに流れず、骨太なしかも大きな変化を起こす方策を検討し提言する。そして、平成 24 年度からのアクションプランを策定して実行フェーズに移ることを目指すと共に、この WS を通じて「まちづくり人材」の育成を図る。

■ これまでの経緯

和歌山市では平成 10 年度「第一次中心市街地活性化基本計画」を策定し、翌年に TMO「(株)ぶらくり」を設立して中心市街地活性化を 4 年間進めてきたが、57 事業中 11 事業の実施に留まった。平成 16 年度に WS を実施⇒市民の意見を反映した基本計画に改訂、事業推進を強化して 32 事業中 13 事業を実施し、合わせて 89 事業中、実施できた事業は 24 事業と実施率 27%に過ぎない状況であった。

そこで国の方針変更に則り平成 18 年度からは、推進の主体を TMO から中心市街地活性化協議会に移し、「第二次中心市街地活性化基本計画」を策定、平成 19 年度から、約 60 の事業に取り組んできて、この平成 24 年 3 月で終了した。この事業の実施率は内容を別にすれば約 95%で、「フォルテワジマ」や「けやき ONE」などが生まれ、一定の成果は得られたが、中心部の衰退に歯止めがかかったとは言えない状況にある。今後の急激な人口減少と高齢化の進展を考えると、「中心市街地活性化（まちなか再生）の重要性」はますます高まってきている。

■ 現状と課題、検討の方向

1. 人口減少と高齢化（2030 年には人口 30 万人を切り、内高齢者 10 万人超⇒税収が半分になる大変な事態）が急速に進む今後の和歌山市を考えて行く上で、コンパクトで持

続可能な都市の形成が不可欠であり、市と市民、地域住民が一緒になって考え、「まちなか再生（コンパクトシティ）」の方向に、思い切った政策の舵を早急に切る必要がある。

2. 中心市街地におけるビルや商店などの集積が、「100 万人商圏」という時代のニーズに合わせて無秩序に広がってきたため、まち全体にメリハリのない均質な空間になっていた中で、商圏が激減した結果、空ビル・空店・空家・空地（駐車場）が逆に無秩序に市街地に広がって、中心市街地の空間は更に魅力を失ってきた。
3. 第一・二次中心市街地活性化基本計画で策定した約 90 の事業を実施したにもかかわらず、中心部の再生には明るい兆しが見えてこない。
4. これらの状況を建て直すには、これまでの手法の延長上に解決方法を期待せず、視点を大きく変える必要がある。⇒単なる空店対策のような活動ではなく、「まちの中心」を決め、そこに新店舗・新サービスなどの魅力的な集積を新たに創り出すような視点、即ち、「今のまちなか」に「コンパクトで魅力的な集積＝新しいまち」を創るような方向を目指した。

■ 戦略 WS の実施

1. 進め方のポイント

- (1) 「計画段階から徹底的な議論をして『目標・計画・計画実行方法&体制』などの合意形成を市と住民で図ること」
- (2) 「熱意と行動力のある人が『事業担当』を引き受けて実行していくこと」
- (3) 「事業推進のマネジメントを適切に実施すること」
- (4) 「体験、発見など感覚的な要素を大切にする“まちなか再生の原則”を重ねていくこと」
- (5) 「100%共有はありえないが、キチンと納得しながら進めること」

2. WS 実施の体制と内容

- (1) 奥村プロジェクトコーディネーター・高橋顧問の指導を受け、プロジェクトマネージャー・ファシリテーター6 名を含むスタッフ 9 名、WS 参加者（36 名⇒最終 22 名）の体制で 20 回実施。

(2) 各回 WS の内容（表 1）

「まちの中心の重要性」の共有&キチンと納得しながら進めることを重視して進めたため、「今を知る&中心の重要性・条件を考える⇒候補地の選定」に 2/3 を費やすことになった。

従って、「将来を構想する&実現に向けたプロセスを考える」については時間が足りず構想段階に留まった。

(3) WS の結果・成果

① 中心の定義

- ・人と情報が集まり賑わいのある、市民の誇りとなる場所

② 中心の 7 つの条件

- ・和歌山の独自性を随所に感じる“文化”があること
- ・様々な価値観を受け止める“多様性”に富んでいること
- ・まちに奥行きをもたらす“セミラチス構造”（「表-裏-奥」を感じさせる街路構成）を備えていること
- ・優れたデザインで構成されている“居心地の良い空間”があること
- ・都市における“質の高いライフスタイル”を実現できること
- ・“安心・安全・利便”の交通体系により、ゆったりと歩けること
- ・生き生きとした変化を生み出す“連続的な投資”があること

③ まちなか再生ケーススタディのための「中心の候補地」の絞り込み

第 13 回「まちのわ」WS で、11 の候補地があがっている状態から、4 グループに分かれて自由に中心地のイメージ図を書きながら、中

表 1 まちなか再生戦略 WS の内容

	月 日	テーマ	主な内容
	0 9/16	WS の組立を考える作戦会議	・メンバー構成、内容構成 ・スケジュール など
今を知る↓中心の重要性を種々の角度から考える↓中心の定義と条件を考え候補地を選択	1 10/11	・中心市街地活性化の経緯 ・中心市街地の重要性共有	・目的の共有 ・まちの中心とは？
	2 10/25	他都市で考えてみる	・まちの中心とは？ ・他都市に住んだ経験？
	3 10/29	現地で考える（創造の端緒は発見にある）	・ストックとは何か？ ・潜在的ストックを発見
	4 11/8	地図を使ってみる	・歴史的な地図から中心候補地を探す
	5 11/15	まちの中心の意義・重要性を再度自由に考えた	・様々な視点から考える ・経緯も大切にする
	6 11/29	まちの中心を歴史的に考える⇒まちの中心の再考	・中心地の成立を勉強：和歌山市博物館館長
	7 12/13	空間の魅力化を考える“30 年後の和歌山のまちの顔”	・イメージを描く ・地図を使って考える
	8 12/17	候補地を絞り込むために再度、現地で考える	・現実を見て、現実に関わり可能性に焦点を当てる
	9 12/20	イメージを膨らます：候補地を言葉で表現、絵で描く	・空間的な魅力 ・使われ方の魅力 ・時を超えた魅力 ・主体別の魅力
	10 1/10	中心地の重要性・定義を再考、視察準備	
	11 1/14	実際に行ってみる ・丸亀商店街視察	・先進事例を見学。
	12 1/24	視察を振り返り⇒“まちの中心の定義と条件”再確認	・話を聞くことが重要で成功の本質を感得する。
	13 1/31	今までの WS の振り返り⇒中心地定義・条件を再考⇒中心候補地を再考	2 グループから初めて上ってきたぶらくり丁を含め 12 ケーススタディ候補地となった
将来構想 & 実現に向けて	14 2/7	まちの中心 4 候補地（ケーススタディ地）を決定⇒その地域の将来像を物語風に描くことを開始	⇒4 グループがそれぞれ中心地域を想定した将来像を発表⇒4 候補地に！
	15 2/14	将来像を物語風に描くプロセスデザインを開始	20 年間の道筋を考える
	16 2/21	プロセスデザイン I	各ケーススタディ中心地の将来像に至るプロセス
	17 3/6	プロセスデザイン II	中心地が決まるまでのプロセス
	18 3/13	最終報告会	（於）みんなの学校

心候補地を選んだ結果、ぶらくり丁が復活して中心候補地は4地域になった。

④ ケーススタディ：中心候補地4地域の将来像を構想

- ・ぶらくり丁界限：北ぶらくり丁とぶらくり丁間の駐車場を公園にし、露地で繋ぐ。この公園や露地には魅力的な小店舗などが集積するエリアとして発展・・・・・・・・
- ・内川周辺：内川へ向いた商店、川床料亭、植栽、カヌー、楽しいイベント・・・・・・・・
- ・けやき大通り：和歌山県自生植物の森にする。この森の中に和歌山らしい店の展開など・・・・・・・・
- ・城前：伏虎中学校（建替要否は検討中）を活用、ここを中心としたまちなかの賑わい創出・・・・・・・・

⑤ 将来像を実現するプロセス（行動計画）を構想

- ・中心地が決まるまでのプロセス&中心地が決まってから将来像が実現するまでのプロセス⇒主として以下のためのプロセス（行動計画）を構想した。
- ・市民が、「まちなか再生が重要で必要だ」と思う気運を醸成させること。
- ・「まちの中心を担う！」と覚悟を決め、活動を開始する地域が現れること。

⑥ 上記成果をまとめ、事業報告会を開催して報告、報告書をまとめて H23 年度事業を終了した。

■今年度4月から6月のフォロー活動

「アクションプラン策定&実行体制の確立」を、引き続き事業フォローとして行った。

(1) 4・5月の追加WS(4/19、5/18、5/31)を実施、アクションプランの策定を目指した。

・世論醸成戦略チーム ・イベント検証戦略チーム ・情報発信戦略チーム

3チームのWSで検討した。進めるべき重要な6項目を選ぶところまで進んだ。

(2) 6/11、6/20、6/26とコアメンバー会議を実施、基本活動方向・アクションプランを整理した。

■「わかやまイネ！プロジェクト」が、新しい「まちなか再生活動」をスタート

7/6に全体会議で下記の新しい活動の目的・アクションプランを承認、8/10に「わかやまイネ！プロジェクト」として、8/10第1回全体会議を開き、具体的な「まちなか再生活動」をスタートさせる。そして、和歌山市「まちなか再生会議」や本機構の研究会などと連携して「まちなか再生」を進めていく。

1. 目的：「和歌山を幸福度日本一の住み良いまちすること」を目的とする。

我々はこのために、和歌山の「まちなか」を「人と情報が集まり賑わいのある、市民の誇りとなる場所」とするために活動する。

2. 基本的な活動方針（楽しく、おしゃれに）

(1) 和歌山いいね！運動を広げる。

(2) 「まちなか再生」の必要性&重要性をPR⇒気運醸成⇒市民運動化していく。

3. 当面の具体的な活動（表 2）

表 2 アクションプラン

No	項目	内 容	担当・期限
1	発信すべき情報まとめ (1) 基盤情報	コンパクトシティ・中心の重要性を発信するため調査・まとめ（将来も含めた地域別人口推移・地価推移など）	～10/30
	(2) 「まちのわ成果」	「まちのわ成果」など	～8/10
	(3) 地元説明用資料	成果&基盤情報・新活動内容の地元への説明会用資料	～10/30
2	わかやまイイネ！運動	具体的な活動方法を明確化⇒活動開始	8/10～
3	イベント分析	賑わい創出に活用出来るイベント探索 ・まちなかで開催のイベント案内は、年度末まで継続 ・工夫や連携で賑わい創出に効果があるイベント、一工夫で調査やデータ収集等ができるイベントをリストアップ	順次報告し 最終 3/31
4	まちづくりサロン	・二火会（1000 人会と協働） ・協力店（スイッチなど 3 店くらい） ⇒二火会を協力候補店で 3 か月に 1 回くらい実施	継続 順次
5	情報発信 ・紙情報、IT ツール、ラジオ、テレビ等メディア MIX	ブログ⇒名前が決まってから HP⇒9 月くらいか ・わかやまイベントボード、ニュース・ハーバーなどの活用も考える（主宰者と調整要） ・目標月日を決め、大々的に発信	～7/20 ～9/30
6	具体的な活動	やりたい人がやりたいことを企画⇒仲間を集める。例えば、 ・掃除や清掃 ・焼きそば ・ステッカー ・ぶんだらに連をつくって参加 ・県の市街地緑化事業に参加	7/10～ 企画開始
	他の団体・個人への PR ⇒入会勧誘や連携	・相互に講演等の機会を持ったらどうかなど、それぞれが参加している他の団体で PR⇒連携 ・地元説明会	7/10～ 11/1～